

豊島区立雑司が谷旧宣教師館

〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷 1-25-5 Tel/Fax 03-3985-4081

## リリー・サイパート女史縁者が来館

11月10日（土）にアメリカより雑司が谷でマッケレーブ師と共に宣教師活動をしたリリー・サイパート女史（1890-1954）の縁者にあたるブレンダ・ニクソン夫人とサイパート女史によって育てられた柳内秀康（やないひでやす）氏が来館しました。ニクソン夫人はサイパート女史の姉の孫にあたり、サイパート女史について執筆されています。柳内秀康氏は戦前よりサイパート女史がお世話をし、第二次大戦後はアメリカでサイパート女史と共に生活をされ、現在に至ります。

また、旧宣教師館設立当初よりマッケレーブ師の活動に関する資料寄贈など、様々な面でご協力いただいている野村基之（もとゆき）氏も奥さまとともに来館いただき、柳内氏たちと意見交換などされ、日本における宣教師の普及活動などについてお話を伺うことができました。そのなかでも、海外よりキリスト教普及のために日本を訪れた宣教師と共に来日した女性は、普及活動を通じて日本社会と交流があった宣教師にくらべ、外に出て日本語に触れるを機会が少ないことから日本語に慣れず、地域社会との交流が難しく、結果として孤立し女性のみ母国に帰国するといった彼らの日常社会を知ることができました。

野村氏は、おそらくマッケレーブ夫妻もそのようなことから、マッケレーブ夫人は子どもを連れて母国に帰国したのではないかと話されています。その他、女性宣教師は母国から経済的な支援を受けることが難しかった、という話を伺いました。

雑司が谷幼稚園を卒園された前島氏からは、マッケレーブ氏の日本語が拙かったこと、男の子を呼ぶときに「ぼっちゃん」というべきところを「ぼちゃん」と呼ぶ癖があり、はじめの頃はなかなか気がついてもらえず困っていた、といった逸話も聞くことができました。





## 旧宣教師館の周辺道路

前回では当館が小高い台地の上に建っていることを確認しました。また建設ときに撮影した写真や住宅地図などから住宅などもまばらで大変見晴らしが良い場所だったと考えられます。当時、目白台などから見上げると台地の上に立つ瀟洒な西洋館が人々の目にどのように映ったのでしょうか。このあたりも追々調べていきたいと思います。

さてマッケーレブ氏は当初現在日本女子大学（目白台）に隣接した場所に雑司ヶ谷学院などを建設する予定でしたが、女学校の隣に男子寮が建つのは困ると創立者である成瀬仁蔵（なるせじんぞう）氏より現在の土地を紹介してもらった話はよく知られています。では、旧宣教師館が建てられた明治40年ごろの雑司ヶ谷と目白台で何が違ったのでしょうか。目白台では日本女子大を中心にみます。

明治42年の地図を広げると目白台に「女子大學」とあり、これは現在の日本女子大学にあたります。日本女子大学は目白通りと不忍通りに挟まれており、目白通りは坂を上がるように進むと目白駅にぶつかります。旧宣教師館が建設された当時、日本女子大前を通る不忍通りは直線でつながっていることや道路も他と比べて整備されていることから、使用しやすかったと考えられます。

同時期の雑司ヶ谷には住宅も建っていますが、田畑も多くまた整備された地図上でみると大きな道がなく、現在でも見られるように細い道が張り巡らされた場所でした。今でこそ閑静な住宅地として知られていますが、明治40年などは目白台に比べると寂しい環境にあったことがわかります。また、住宅周辺の環境、利便性などを考えると目白台の方が動きやすかったことがわかります。

立教大学が築地より現在の西池袋3丁目に移ってくるのは大正7年です。この頃の現豊島区域の中心は池袋に移りつつありました。旧宣教師館が建つのももう少し遅かったら、このあたりに建てられていたかもしれませんね。

尚、池袋駅は明治36年に設置されます。その後、大正3年に東上鉄道（現東武東上線）、大正4年に武蔵野鉄道（現西武池袋線）が開通し、池袋駅周辺が徐々に都市化していきます。



## おばあちゃんのおはなし会

この3月でおばあちゃんのお話会も110回目を迎えます。本館建て替え工事などで中断することもありましたが、当館の重要な事業として皆さまに愛されながら続いています。おばあちゃんのお話会は毎月第一土曜日午後2時より本館内（平成25年3月までは雑司ヶ谷区民集会室）で開催してます。参加無料・事前予約なしです。お立ち寄りください。



今年の秋は例年より寒く、夏からすぐ冬になったように思えます。

皆さま、今年はどうのような年をお過ごしでしたか？旧宣教師館は7月より事務棟の工事が入り、現在（2013.1）外壁が組み上がり、着々と工事が進んでいます。工事は春先まで続きます。それでは皆さま今年も雑司ヶ谷旧宣教師館をよろしく願います。